

# 心理コーディネーターになるために Vol.3

山下桂永子

## ☆机と椅子と電話と PC

2013 年の 4 月、某市の教育センターで「心理指導員」という立場で働くことになり、それまでは事務所の端にある大き目の机と椅子を 4 人ほどの相談員が向かい合って共同で使っていたのだが、週 4 日勤務となったことで、事務机と椅子、ノートパソコン、そして電話機一台を自分専用として使わせていただけることとなった。



某市の教育センターで働くようになってはや 10 年近く。自分の机がもらえるということは、私とその職場の職員としてそこにいるんだと周囲にも意識され、何かしらの役割を担う、ということである。その意義深さのようなことを私は他県のスクールカウンセラーをしながらとても感じていたので、その当時はその机がとても大きく感じ(今や整理のつかないメモやらなんやらで手狭に感じる状況だが)、うれしくも背筋の伸びる思いがした。



## ☆心理指導員ってなんや

この与えられた机と椅子、電話とノートパソコンを使って「心理指導員」という聞きなじみのない立場として何をすべきか。実のところ、それは誰一人知らず、何一つ決まっていたはいなかった。ちょっとありえない話である。

私の「心理指導員」としての役割を作ってくれた(予算を取ってきた)前年度の所長は異動になり、新しい上司は、「心理指導員」はおろか、教育相談が何をしているのか、どう活用していくものなのか、あまりイメージがあるようには見えなかった。今でこそスクールカウンセラーが中学校だけではなく小学校にも配置されるようになり、カウンセラーになじみのある先生方も多くなってきてはいるが、当時はスクールカウンセラーを配置する立場である教育委員会の先生にもカウンセラーと一緒に仕事をしたという経験のある方はかなり少なかった。スクールカウンセラーでさえそうなのだから、教育センターの相談員、しかもその年初めて降

ってわいた「心理指導員」なるものが何かなどわかるわけではない。そもそも本人だってわかっていない。

なんとなくわかっていたのは前年度所長が言った「教育相談員の取りまとめをしてほしい」というものすごく抽象的なオーダーのみ。「心理指導員」ってなんや。もうそこからのスタートである。

### ☆「心理」+「指導員」=??

心理というからには、心理学を使って何かをするわけである。でも指導員？指導員ってなんや？聞いたことないな。同じ職場の人には教育委員会の中で「指導主事」という役割の人が多くいる。どうやら市の職員であるらしい。ん？先生って府の職員ちゃうの？市なの？もう何が何だかわからない。



しばらくたってわかったことは教育委員会には指導主事の他にも指導員という立場の先生もいるらしいということ、指導員の上が指導主事で、普段は学校と書類からなにかいろいろとやりとりをしながら学校の教育活動を支えているらしいということ。指導主事が教育委員会から学校現場に戻るときにはまた府の職員に戻るらしいということ(このあたりその自治体によってシステムがだいぶ違いますが当時の私は知りません)である。制度上、同じ指導員という名前がついているけれど、どうやら私が目指す心理指導員と教育委員会の指導員のイメージは現時点でだいぶ違うらしい。

そして「心理」という言葉と「指導」という言葉が一緒になるとなんだかおさまりが悪く、二つの言葉のイメージがすくなくなじまない気がしていた。教育相談員の取りまとめをするということ=教育相談員への指導ではない。教育相談員の先生方は、心理士以外にも言語や発音専門の先生や元学校の管理職の先生もいる。指導なんておこがましい。



### ☆イメージがないなら作るしかないけれど

結局のところ、「心理指導員」に誰もイメージがないということは、一から作っていくしかないのだが、私自身にそのイメージがない。とりあえず「指導員」の方は予算を取ってくるために他と差別化するための役職名だということで置いておこう。「心理」の方を考える必要がある。「心理」が教育相談でできることを再考し、私がいいと思う教育相談をやっていく中で、それをきちんと説明できるようにならなければならない。

しかし、「教育相談をやっています。対象はこどもです。心理の立場か

らその取りまとめをやっています」で何が伝わるというのだろう。何をしているのか全然わからないじゃないか。あまりにも言葉足らずであいまいで抽象的すぎる。教育分野で心理学を使って教育相談を行う人はどういうことをやっているのか。



スクールカウンセラーならば数年間やってきているし、研修も書籍も探せばあるし、それを参考にある程度説明はできた。でも心理指導員はスクールカウンセラーではない。何が違うってそこが問題なのに、教育センターで教育相談を10年やってきて、自分の仕事は何をどうするものであるのか、その意義はなんであるのかまるで説明ができないことに愕然とした。これはまずい。今まで私はいったい何をやってきたんだろう。これで教育相談員の取りまとめなんてできるわけがない。

### ☆力量不足に助け舟

私が今ここで「心理指導員」として何をするのかを教えてくれる人はいない。最初は暗中模索五里霧中であった。

幸いだったのは当時の私には相談できる方、新しいことに理解をして一緒に取り組んでくださる方が心理士、教員問わずたくさんいたことだ。他県でスクールカウンセラーをしていることで、他の地域の教育相談の取り組みも参考にできた。そしてそれまでの医療や福祉、産業での経験からは、カウンセラーがどのようにその職域で活動しているのかということ、それが教育現場とは違うと知っていることも今となってはただの遠回りでなかったと思えるし、心理士になる前から教育相談に関わっていたことで、カウンセラーに対しての固定概念やイメージがあまりなかったことなども今になって思えば大いに役に立った。

### ☆説明できる教育相談を

教育相談はこうあるべきとか、カウンセラーのすることはここまでとかそんな枠は取っ払って考えよう。その数年前にあった、東北の大震災での支援活動に参加していた時に、あるスクールカウンセラーの先生に言われたことがある。「心理学的知見があれば、何をしてもそれは心理臨床だよ」と。その言葉は私の中で今も方向性に悩んだ時には支えとなっている。だからこそ、心理指導員がどうというよりは、良いと思うことはなんでもやってみよう。そしてそれを心理学的枠組みから言葉を尽くして説明できるようになろう。

というわけで心理指導員としてのミッションは、教育相談の言語化ということになったのである。

